

ベガルタユース(Jヴィレッジ)応援報告

月日 : 04年2月8日(日)

報告内容 : 東北クラブユースサッカー新人戦観戦

参加人数 : VVN及びボランティア18名

活動報告

ちょっと恥ずかしいことだが、実は97年に完成しているJヴィレッジを訪れるのは実は初めてだった。行ってみたいという気持ちはどこかにあっても、特にいかなければという強い理由がなかったのだ。しかし、今回は昨年から有志ですすめてきたベガルタの子供たち応援の横断幕が完成し、合わせてユースのコーチとの以前からの約束をこの機会にはたしたいと思った。結果からいえば、まずは行って良かった。あのような施設があることを知ったこと、そこで必死に戦う子供たちの姿をみられたこと、何より仙台から3時間と、思っていた以上に身近な距離であったことを認識できたのだから。

仙台を5台の車に分乗し、それぞれが目的地をめざす。私たちが出発したのは仙台スタジアム前を朝9時だった。空は手が痛くなるほど冷たくはあったが晴れていたし、道路の雪はほとんどなかった。6号線に入りあまり信号のない道をただ走り続けた。やがて道の両側にみえていた雪の姿が減り、福島県に入ると日陰のすみに見える程度となり、相馬・原町・浪江と過ぎるころにはもう雪は見えなくなった。変わって原子力発電所の案内板が増え、Jヴィレッジがその設置と引き換えに完成したことを思い出させる。

榎葉のまちは国道からその姿は見えない。けれど目印とした「みちの駅」は温泉もあってなかなか立派なものであったし、何より形だけの施設が多い中、多くの人でにぎわっていた。あちこちに貼ってあった「みちの駅のパンフレット販売全国一」というのも本当なのだろう。

Jヴィレッジの中核はなんといっても数多い天然芝のサッカー場。そしてそこを使用する人々のための宿泊施設がある。そのほか、いろいろな付帯施設があるようだが、全体を説明するパンフレット類や案内板がなく、確認することはできなかった。完成して約7年、さまざまな歴史を刻んできたのだろうが、利用者に対するサービスと施設の使い勝手には多少の問題を感じた。日本のサッカーのメッカとしてぜひ、絶えざる努力を惜しまないでほしい。

目的とした「東北クラブユースサッカー新人戦」の会場はピッチを見下ろすセンターから離れた「スタジアム」であった。到着した時点では太陽がのぞき、ゴールうらのネットに横断幕を取り付けている段階では、けっこう暖かく感じていた。やがて14時、FCみやぎとのゲームが始まる。一進一退の攻防が続いたが、結果は判然としない審判の判定により1-2でのまさかの敗戦、決勝リーグ進出には厳しい結果となったが、負けて泣き崩れる選手の姿に次の可能性を感じた。そして、寒い中声をだしての応援、選手の家族、埼玉からのサポーター、遠い昔の記憶につながる光景、それもまた、次への可能性を感じた。

< ベガルタユース 1-2 みやぎFC ・ 塩釜FC 6-0 山形ユース >



Jヴィレッジ
施設写真
04.2.8

